

(正7年)

(昭和20年12月30日第3種郵便物認可)

北

鹿

大館は「山車」やま

祭典実行委が読み明文化

芸能伝承部を新設

大館神明社祭典実行委員会（小根伸夫会長）は9日夜、大館市の北秋くらぶで総会を開き、祭典（9月10、11日）の事業計画を決めた。会則改正で「山車（やま）」の読み方を明文化したほか、芸能伝承部を新設した。

各講から約60人が出席。小根会長は「経済効果も大きいのが、精神的効果がかなりある祭りを今後も続けていかなければならない」とあいさつした。

行事は例年通りの神明社みこし担ぎやみこしパレード、山車合同運行（田之坂越え）、山車見世、祭典祝い水など。協賛金目標を200万円と設定し、町内以外にも祭典しおり広告を募る。協賛店で割引などのサービスを受けることができるクーポン券も作成する。

山車は一般的に「だし」と呼ばれるが、祭典では慣例として「やま」としてきた経緯があり、新たに会則に盛り込んだ。芸能伝承部は、草創期に携わって

いた役員が少なくなるとなった。このほか総会と理事会の「二院制」を改め、理事会に議決機能を二元化した。



事業計画などを決めた総会（北秋くらぶ）